

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	水田耕作放棄地をもち麦に転作活用し商品化を目指す事業
事業主体 (連絡先)	OMIMO 代表：久保田芳永 090-9664-6725
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,485,000 円 (うち支援金：1,113,000 円)

事業内容

栽培した大麦が信州の環境にやさしい農産物の認定を取得

6月10日～令和2年播種したホワイトファイバーの収穫を行い6月30日穀物検査を受け、販売を開始した。7月3日ラジコン草刈り機納品。試運転時、障害物に衝突し破損したため牛越製作所に引き上げ、修理改良を行う。修理改良後、9月9日再納品。耐久性が向上したことを確認。草刈り最盛期を過ぎていたので、来年度も引き続き牛越製作所と連携して性能向上を目指す。

ラジコン草刈り機の体験会を農業委員会をはじめ農業関係者に向け開催。NPO 法人山福農林舎の就労支援者に向け開催した。

事業効果

- ①機械トラブルのため、草刈り最盛期に間に合わなかったが改良後は耐久性が向上しており、短い期間で試した結果では省力化に大いに貢献できると感じた。
- ②体験会を通して、草刈りが困難な人にも操作できることが確認できた。特に障害を持つ就労支援者において、ラジコン草刈り機を操作出来ることで仕事の幅が広がることを考える。体験参加人数 25名
- ③OMIMO が栽培するもち麦の販売が村内外で好評を得ておりリピート購入する方が増えている。もち麦を製粉し村内の飲食店でメニュー化が始まり小学校では給食提供が始まり食育に活用されている。村内販売実績 30%アップ

今後の取り組み

- ①来年度は、草刈り最盛期でラジコン草刈り機の実力を試し問題点などを牛越製作所と共有し更なる性能向上に貢献していく。草刈り以外の農作業に活用できるか(今年度もち麦の麦踏み実施) 試行錯誤する。
- ②ラジコン草刈り機を、NPO 法人山福農林舎に貸出し、就労支援を受けている利用者に OMIMO の圃場等で就労訓練をしてもらう。また、様々な団体・個人に体験する機会を設けたい。
- ③来年度は、今年度に比べ生育状況が良く収穫量が期待できるため販路拡大に取り組む。併せて、6次産業化にも取り組み、信州大学医学部保健学科・麻績村商工会・JA 松本ハイランド農協等と連携しもち麦の普及を目指し、更に栽培する農家を増やし耕作放棄地減少に取り組んでいく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【就労支援者が体験】

【目標・ねらい】

- ① 耕作放棄地草刈り作業省力化
- ② 雇用創出のきっかけづくり
- ③ 商品化への進捗
- ④

※自己評価【 B 】

【理由】

継続事業2年目の取り組みが終了しもち麦の認知、ラジコン草刈り機の認知が村内で進んできており栽培面積が拡大している。